日本語日本文学専攻

1．専修科目，授業科目，単位数，担当者及び授業内容

※　担当者氏名前の〇印は，令和７年度の学生募集担当者を表します。

専修科目	授　業　科　目	単位数	担当者	授業内容
日本語学	日本語学特別研究Ⅰ	4又は12	教授 博士（文学） 〇衣畑　智秀	特別研究では，受講者の研究の関心に合わせ，研究論文の読解方法，データの作成方法，データの一般化および理論的な位置付けについて，ともに検討する形で進めていく。特論では，日本語の歴史的研究および日琉諸方言の臨地調査研究をテーマにし，文献読解や面接調査，データ処理の統計的手法などについて解説する。
	日本語学特論Ⅰ	4		
	日本語学特別研究Ⅰ	4又は12	教授 山縣　浩	修士論文を踏まえ，各人の選んだ研究課題を広い視野で発展させるため，研究方法の指導を行う。特にデータ処理に関する助言が必要かと思われるので，その面に重点を置くこととしたい。
	日本語学特論Ⅰ	4		近代語における文法・語彙を中心とする問題を取り上げ，受講者とともに解決してゆく。この場合，文献資料や方言資料など，解決のための基盤となる資料の扱い方に注意し，論文作成を視野に入れた指導を行う。
	日本語学特別研究Ⅱ	4又は12	教授 〇江口　正	各自の選んだ研究課題について，言語学の理論的観点と研究手法を用いて分析する方法を指導する。研究史の把握，データの扱い，議論の構成法などについて具体的な指導を行いつつ，研究会・学会での発表や研究論文の執筆の実践的サポートを行う。
	日本語学特論Ⅱ	4		日本語の文法を中心とする諸問題を取り上げ，その問題と関連する諸理論を見渡しながら言語学的一般化がどのようなものであるべきかを考えていく。日本語の歴史的・地理的なバリエーションにも目配りをした研究の進め方についても考察の対象とする。
日本文学	日本文学特論Ⅱ	4	教授 博士 （文献文化学） 永井　太郎	本講義では，明治二十年代の文学論争について読み直す。前半は，森鴎外と坪内逍遥の間で行われた「没理想論争」，後半は，山路愛山と北村透谷による「人生相渉論争」や，「文学と自然」論争，文学極衰論争を取り上げる。
	日本文学特別研究Ⅱ	4又は12	教授 博士 （比較社会文化） 〇中野　和典	日本近代文学の研究。受講生が設定した研究テーマを追究するために，専門性の高い書誌学的考察，先行研究の整理，問題設定，各種資料や批評理論を駆使した論述等の方法について指導する。
	日本文学特論Ⅱ	4		日本近代文学の中から特に散文作品を取り上げ，書誌や研究史等を整理した上で独自の論を展開する方法を探る。批評理論についても理解を深め，近代文学を研究するために必要な知識や思考力を身につけることを目指す。

その他の科目（担当者未定科目）

授　業　科　目	単位数
日本文学特別研究Ⅰ	4又は12
日本文学特論Ⅰ	4

2．履　修　方　法

①　学生の標準修業年限は３年とし，所定の研究指導科目について，合計12単位以上を修得しなければならない。ただし，優れた研究業績をあげた者については，１年以上在学すれば足りるものとする。

②　研究指導科目のうちから一つの特別研究科目を選定し，これをその学生の専修科目とする。その専修科目を必修とし，12単位を修得しなければならない。

③　専修科目の研究指導（特別研究）担当者を当該学生の指導教員とし，学位論文の作成，その他研究一般について，その指導に従うものとする。

④　特別研究科目は３年間12単位の履修を原則とするが，指導教員が研究上特に必要と認めた場合には，専修科目とせず１年間４単位の履修を認めることがある。

⑤　博士の学位論文は，専修科目について提出するものとする。